

2010年3月期 第2四半期決算説明会



八千代工業株式会社

証券コード 7298
ホームページ <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>
問い合わせ先 事業企画室 企画ブロック 金生谷 康
e-mail: yasushi_kanaoya@yachiyo-ind.co.jp
TEL 04-2954-7331

2009.11.4

本日のご説明内容

1. 第2四半期決算説明

経理部長

北村 哲也

2. 第10次中期計画の進捗状況について

代表取締役社長

加藤 正彰

3. 質疑

1. 第2四半期決算説明

2010年3月期 第2四半期連結決算

2010年3月期連結業績見通し 概要

経理部長 北村 哲也

2010年3月期 第2四半期連結決算

2010年3月期 第2四半期(3ヶ月間) 連結業績

09/07~09/09(国内) 09/04~09/06(海外)	2008年2Q (実績)	2009年2Q (実績)	前年同期比 (増減率)
売上高	781億円	678億円	-103億円 (-13.1%)
完成車事業	305億円	360億円	+55億円 (+18.1%)
部品事業	476億円	318億円	-158億円 (-33.2%)
営業利益 (対売上高比率)	16.3億円 (2.1%)	-0.6億円 (-0.1%)	-16.9億円 (-103.7%)
経常利益 (対売上高比率)	15.0億円 (1.9%)	-1.9億円 (-0.3%)	-16.9億円 (-112.9%)
四半期純利益 (対売上高比率)	8.3億円 (1.1%)	-44.8億円 (-6.6%)	-53.1億円 (-%)
繰延税金資産取崩前 四半期純利益 (対売上高比率)	8.3億円 (1.1%)	-5.3億円 (-0.8%)	-13.6億円 (-164.4%)
為替レート (USドル)	108円	94円	14円 円高

2010年3月期 第2四半期(6ヶ月間) 連結業績



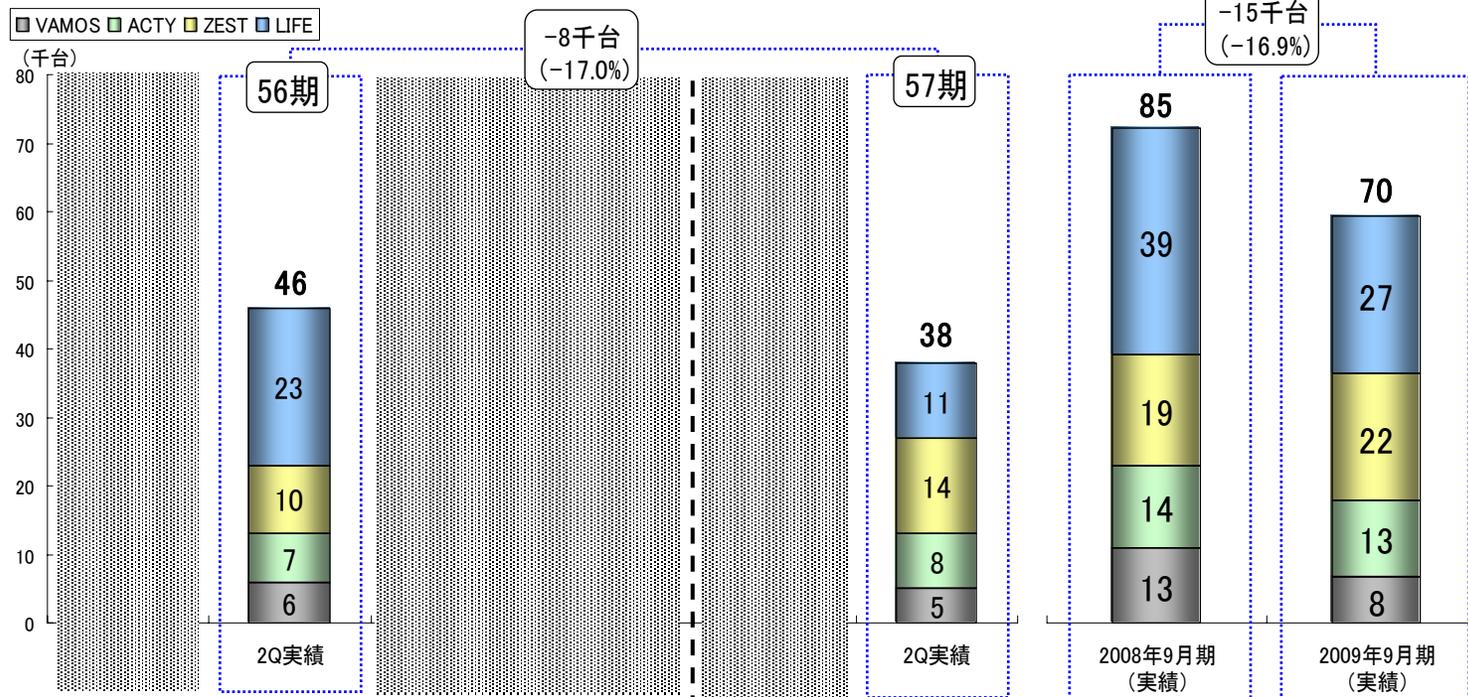
09/04~09/09(国内) 09/01~09/06(海外)	2008年9月期 (実績)	2009年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)	4/27公表 期初 見通しからの増減額
売上高	1,522億円	1,224億円	-298億円 (-19.6%)	-116億円 (-8.7%)
完成車事業	568億円	627億円	+59億円 (+10.5%)	-151億円 (-19.4%)
部品事業	954億円	597億円	-357億円 (-37.4%)	+35億円 (+6.3%)
営業利益 (対売上高比率)	35.0億円 (2.3%)	-10.0億円 (-0.8%)	-45.0億円 (-128.7%)	-12.5億円 (-%)
経常利益 (対売上高比率)	31.7億円 (2.1%)	-11.4億円 (-0.9%)	-43.1億円 (-135.9%)	-11.4億円 (-%)
四半期純利益 (対売上高比率)	19.7億円 (1.3%)	-51.6億円 (-4.2%)	-71.3億円 (-%)	-49.6億円 (-%)
繰延税金資産取崩前 四半期純利益 (対売上高比率)	19.7億円 (1.3%)	-12.2億円 (-1.0%)	-31.9億円 (-161.9%)	-10.2億円 (-%)
為替レート (USドル)	106円	96円	10円 円高	95円から 1円 円安

第2四半期(6ヶ月間) 完成車事業概況

	2008年9月期 (実績)	2009年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	85千台	70千台	-15千台 (-16.9%)
LIFE	39千台	27千台	-12千台 (-28.2%)
ZEST	19千台	22千台	+3千台 (+16.0%)
ACTY	14千台	13千台	-1千台 (-16.5%)
VAMOS	13千台	8千台	-5千台 (-32.9%)
売上高	568億円	627億円	+59億円 (+10.5%)

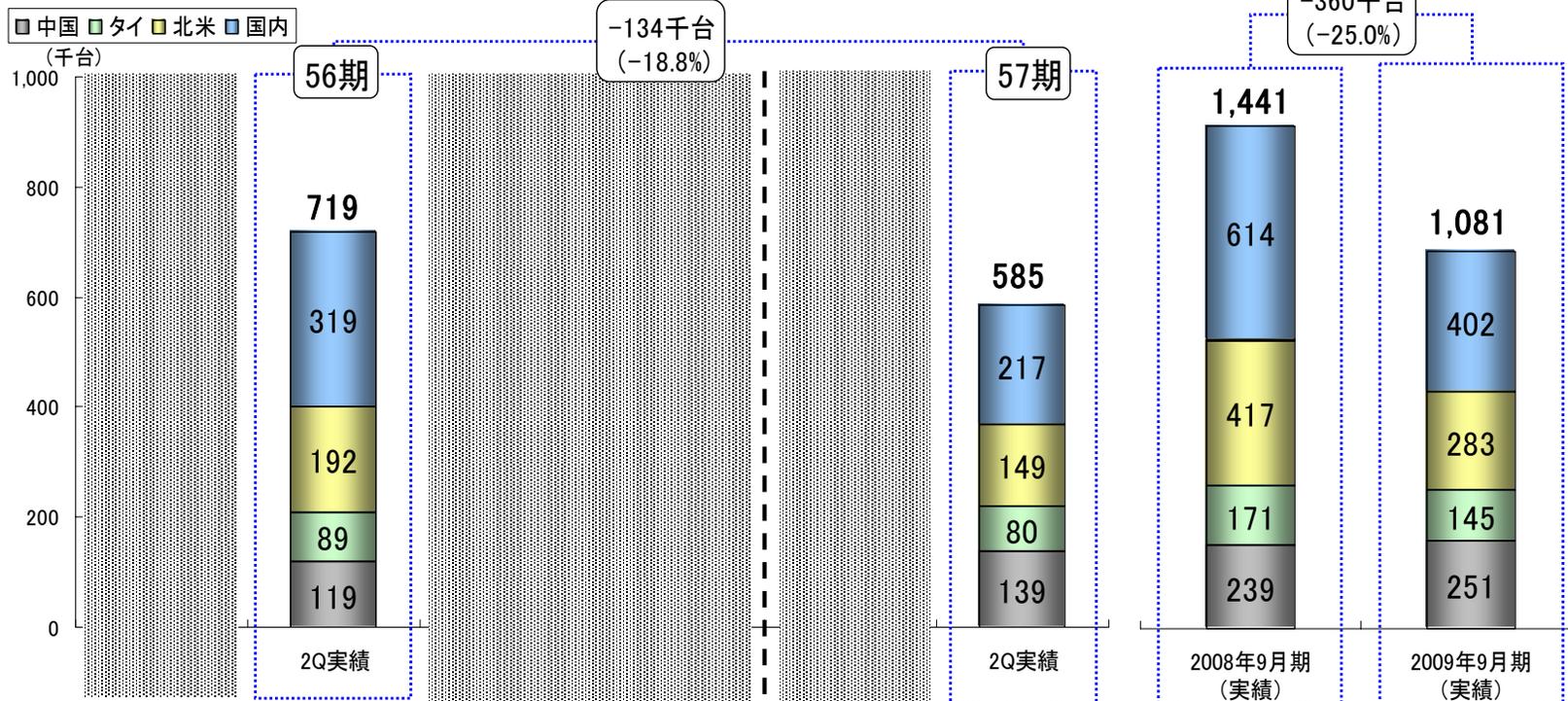
	2008年9月期	2009年9月期
日産台数	714台/日	601台/日

ENG組立開始
(09年5月~)



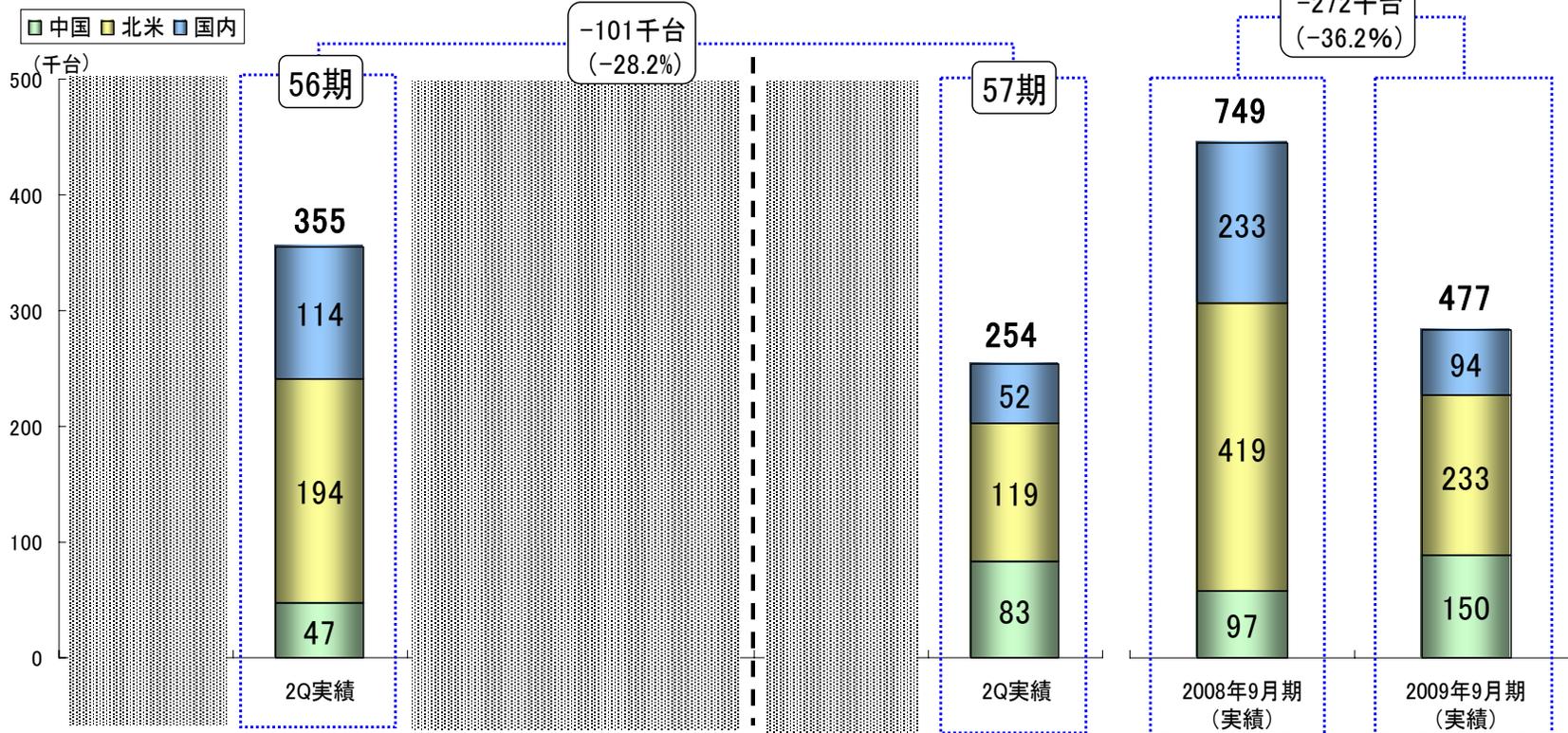
第2四半期(6ヶ月間) 部品事業概況(燃料タンク)

	2008年9月期 (実績)	2009年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	1,441千台	1,081千台	-360千台 (-25.0%)
国内	614千台	402千台	-212千台 (-34.6%)
北米	417千台	283千台	-134千台 (-32.0%)
タイ	171千台	145千台	-26千台 (-15.3%)
中国	239千台	251千台	+12千台 (+4.7%)
売上高	202億円	133億円	-69億円 (-34.0%)
内為替影響	—	-9億円	実質的な売上減 -60億円



第2四半期(6ヶ月間) 部品事業概況(サンルーフ)

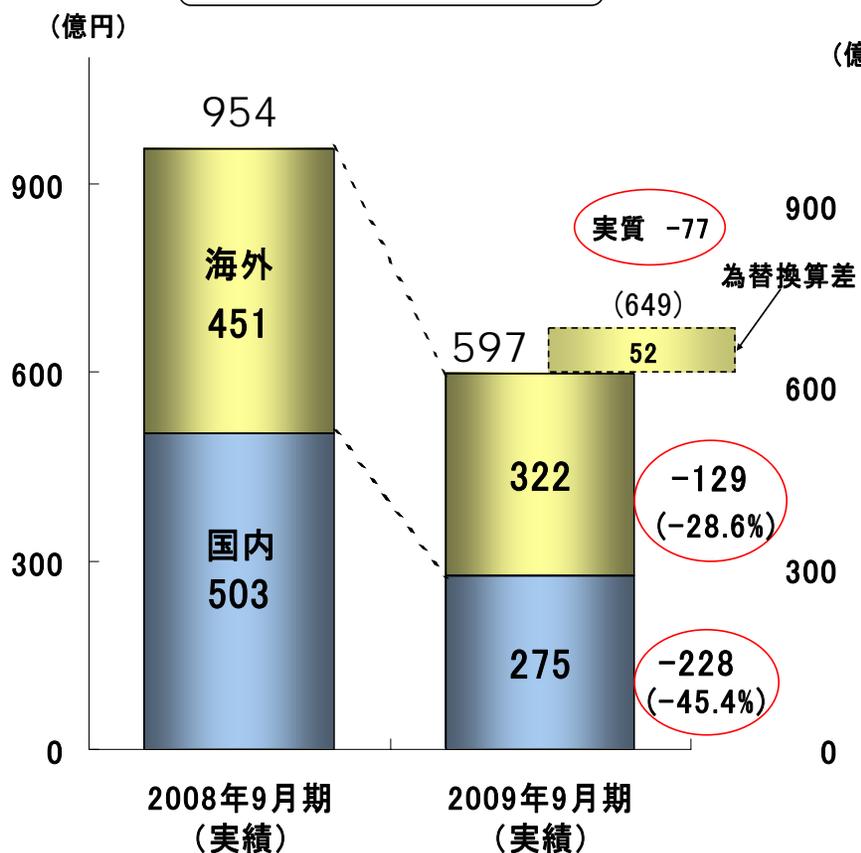
	2008年9月期 (実績)	2009年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	749千台	477千台	-272千台 (-36.2%)
国内	233千台	94千台	-139千台 (-59.6%)
北米	419千台	233千台	-186千台 (-44.4%)
中国	97千台	150千台	+53千台 (+55.4%)
売上高	152億円	94億円	-58億円 (-38.3%)
内為替影響	—	-6億円	実質的な売上減 -52億円



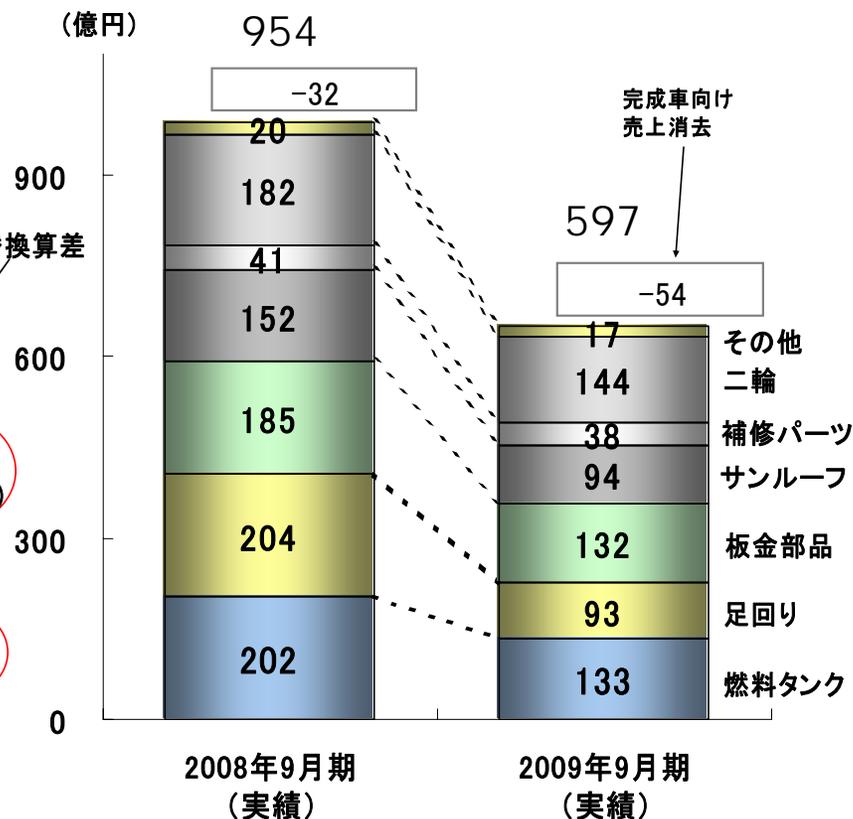
第2四半期(6ヶ月間) 部品事業概況

	2008年9月期 (実績)	2009年9月期 (実績)	前年同期比 (増減率)
売上高	954億円	597億円	-357億円 (-37.4%)

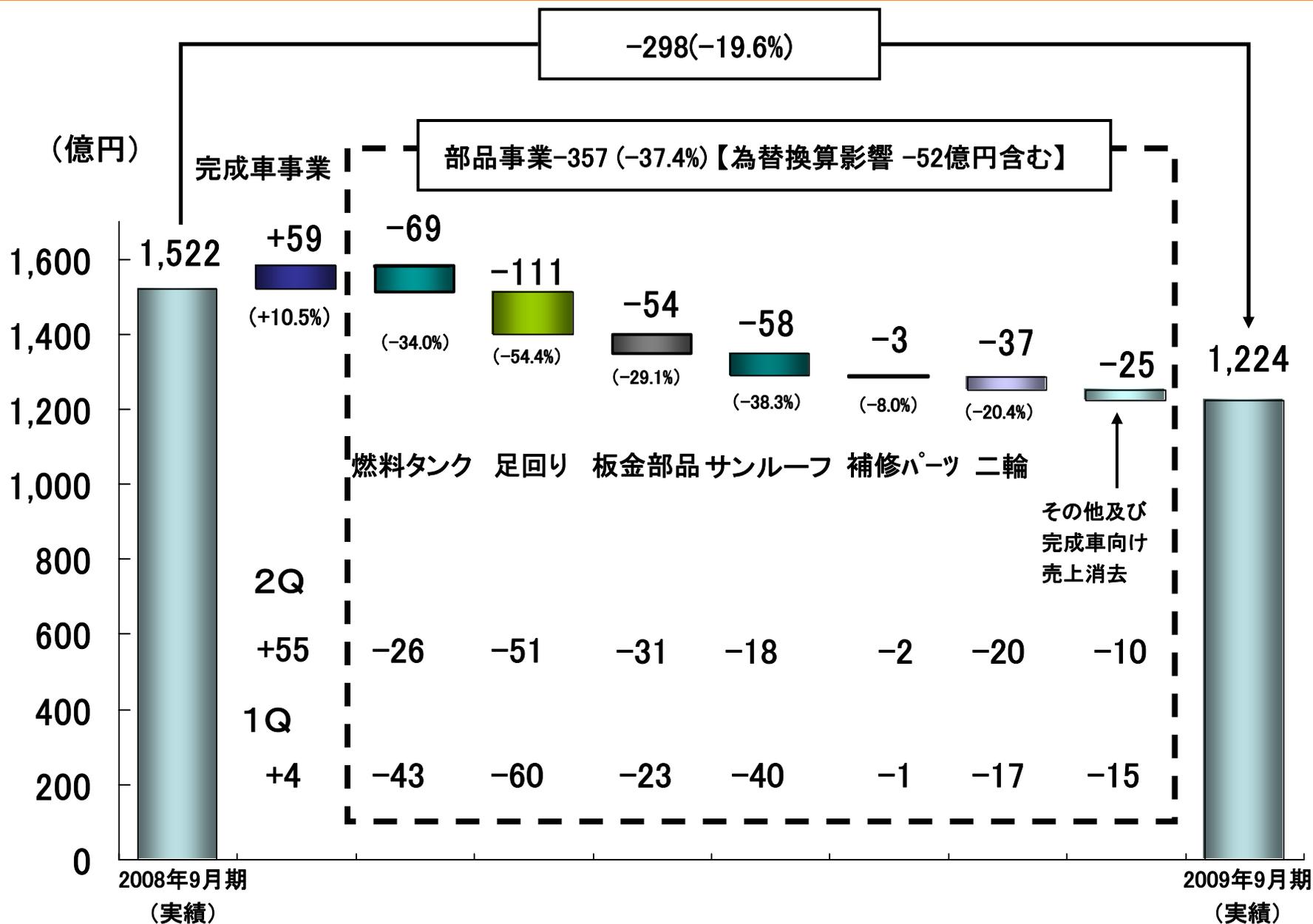
国内／海外区分



部品別区分

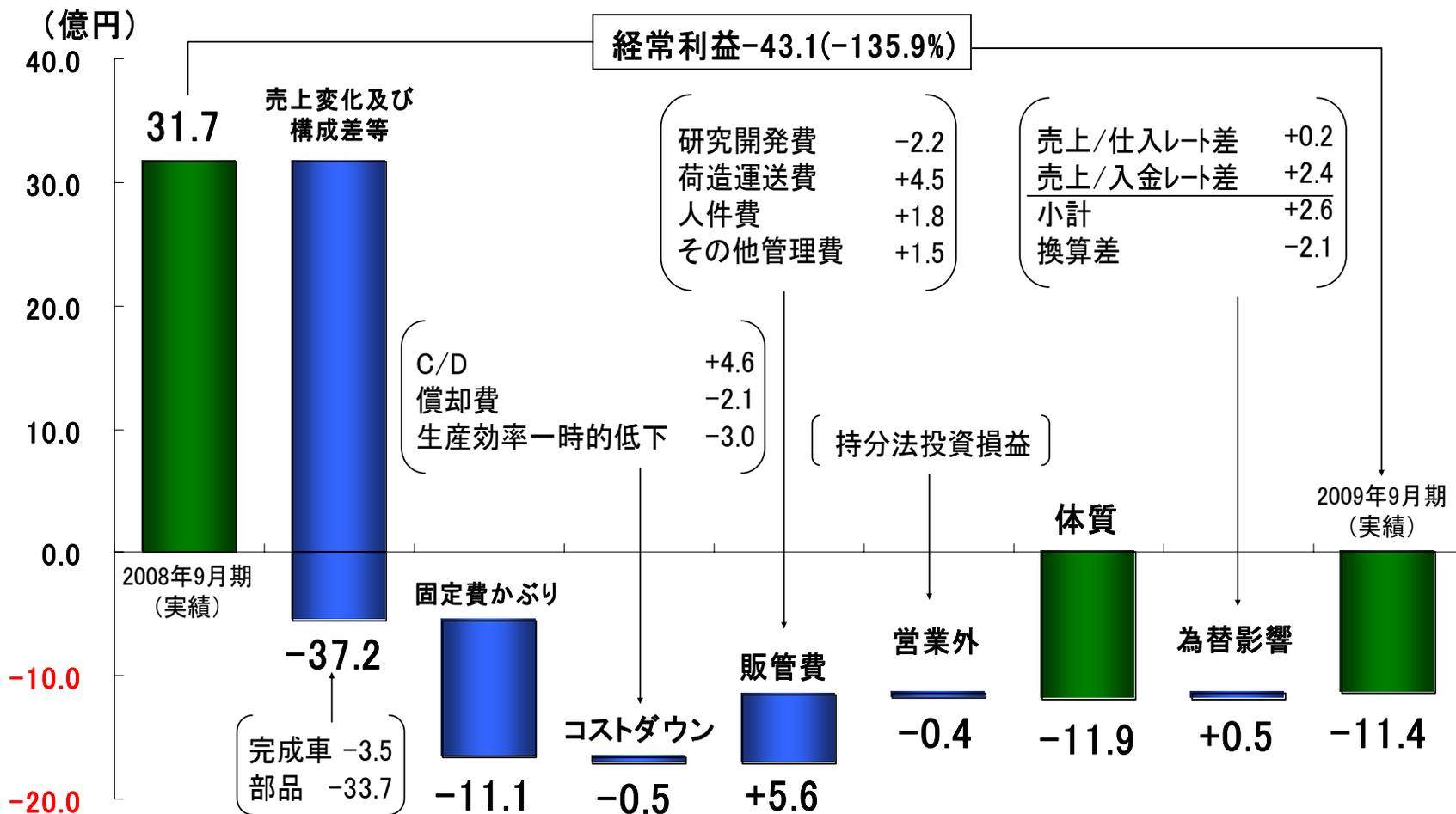


第2四半期(6ヶ月間)連結売上高【製品別】増減要因



第2四半期(6ヶ月間) 連結経常利益増減要因

売上高	1,522	増減 -246	体質 1,276	為替換算影響 -52	1,224	-298
完成車事業 部品事業	568 954	+59 -305	627 649		627 597	



所在地別セグメント情報(6ヶ月間)

【国内】

売上高	-180	
・完成車 15千台減	} +59	
・完成車 ENG組立開始		
・部品売上減	-239	
営業利益	-28.5	
・売上変化及び機種構成差	-21.8	
・コストダウン	+5.9	
・固定費かぶり	-9.6	
・生産効率一時的低下	-3.0	

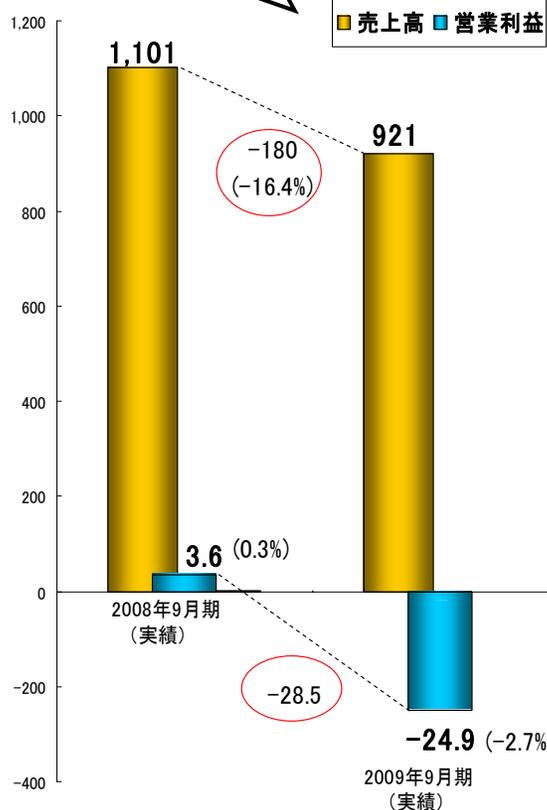
【北米】

売上高	-113	
・全拠点売上減	-93	
・為替換算影響	-20	
営業利益	-15.4	
・売上変化及び機種構成差	-17.0	
・売上レート差、換算差	+0.4	
・コストダウン(荷造運送費減他)	+2.7	
・固定費かぶり	-1.5	

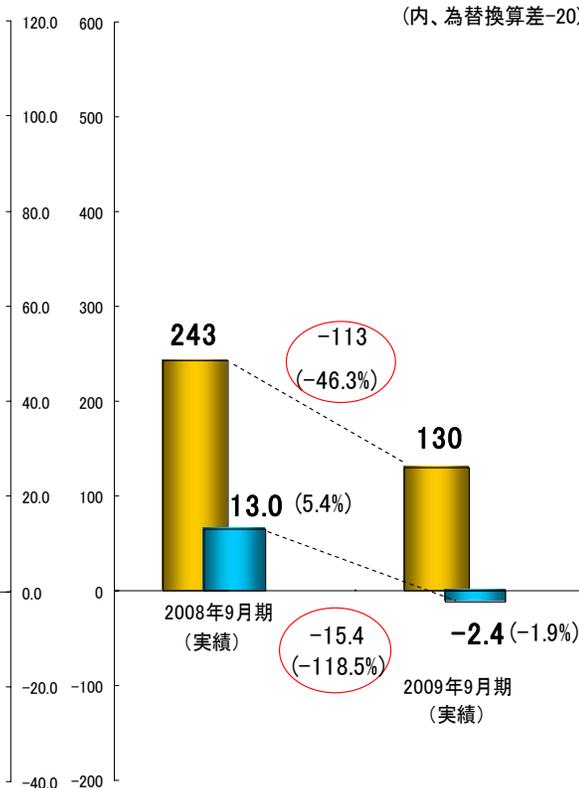
【アジア】

売上高	-17	
・タンク及びSR並びに2輪増	+15	
・為替換算影響	-32	
営業利益	-1.9	
・売上変化及び機種構成差	+1.6	
・為替換算差	-2.3	
・償却費増	-1.2	

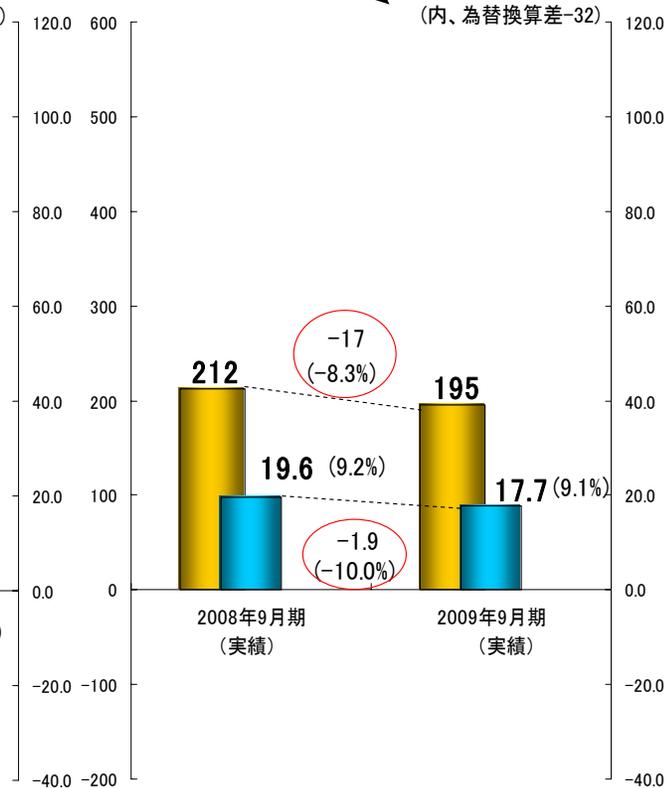
(単位: 億円)

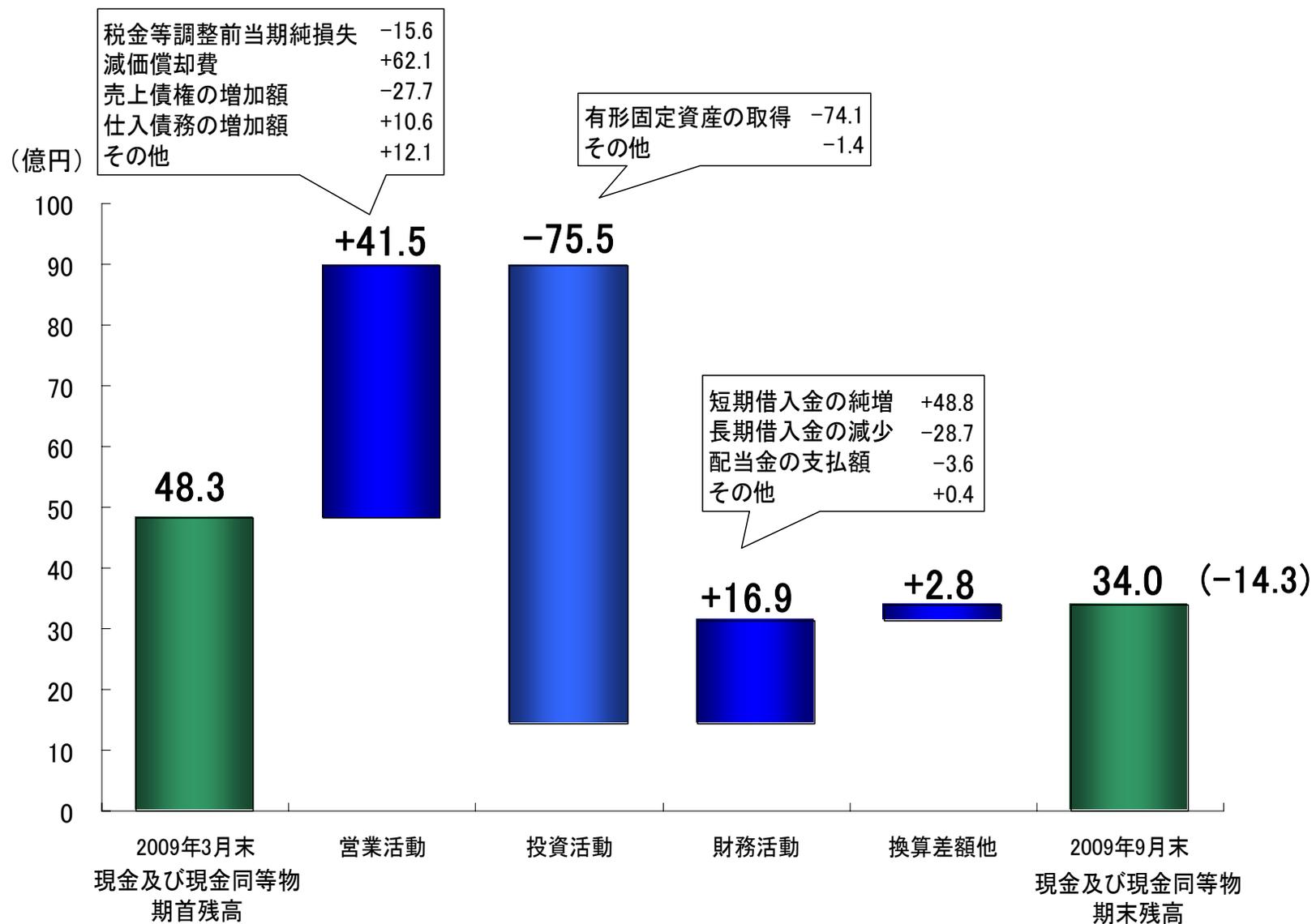


(単位: 億円)



(単位: 億円)





連結貸借対照表

	2009年3月	2009年9月	増減	コメント
総資産	1,201億円	1,196億円	-5億円	受取手形及び売掛金の増 +26億円 繰延税金資産の減 -24億円 未収法人税等の減 -17億円 有形固定資産の減 -8億円 為替換算 +24億円
負債	788億円	822億円	+34億円	有利子負債の増 +20億円 繰延税金負債の増 +10億円 支払手形及び買掛金の増 +9億円 未払金の減 -15億円 為替換算 +8億円
株主資本	431億円	376億円	-55億円	配当金 -3億円 四半期純利益 -52億円
評価・換算差額等	-60億円	-44億円	+16億円	為替換算調整勘定の増 +16億円
少数株主持分	41億円	42億円	+1億円	—————
純資産合計	412億円	374億円	-38億円	—————
負債純資産合計	1,201億円	1,196億円	-5億円	—————
有利子負債残高	404億円	426億円	+22億円	国内 +14億円 北米 +3億円 アジア +3億円 為替換算 +2億円 } +20億円
自己資本比率	30.9%	27.8%	-3.1P	—————
有利子負債依存度	33.6%	35.6%	+2.0P	—————
1株当り純資産	1,545円	1,384円	-161円	—————

2010年3月期 連結業績見通し

2010年3月度 連結業績見通し

	2009年3月期 (実績)		2010年3月期 (見通し)		前年度比 (増減率)	4/27公表 期初 見通しからの増減額
売上高	3,093億円		2,700億円		-393億円 (-12.7%)	-180億円 (-6.3%)
完成車事業	1,302億円		1,375億円		+73億円 (+5.6%)	-265億円 (-16.2%)
部品事業	1,791億円		1,325億円		-466億円 (-26.0%)	+85億円 (+6.9%)
営業利益 (対売上高比率)	60.5億円 (2.0%)		24.0億円 (0.9%)		-36.5億円 (-60.3%)	-19.0億円 (-44.2%)
経常利益 (対売上高比率)	56.2億円 (1.8%)		20.0億円 (0.7%)		-36.2億円 (-64.4%)	-18.0億円 (-47.4%)
当期純利益 (対売上高比率)	3.9億円 (0.1%)		-34.0億円 (-1.3%)		-37.9億円 (-%)	-51.0億円 (-%)
UYT減損前(前期) 繰延税金資産取崩前(当期) 当期純利益 (対売上高比率)	28.6億円 (0.9%)		0.2億円 (0.0%)		-28.4億円 (-99.3%)	-16.8億円 (-98.8%)
為替レート (USドル)	上期 106円 下期 95円	通期 101円	上期 96円 下期 85円	通期 90円	11円 円高	95円から 5円 円高

	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期(予定)		前年度比 (増減)
			期初	今回	
中間配当金	15円	15円	12円	9円	-6円
期末配当金	15円	15円	12円	9円	-6円
年間配当金	30円	30円	24円	18円	-12円
連結配当性向	9.8% ※1(17.3%)	184.0% ※2(25.2%)	33.9%	—	—

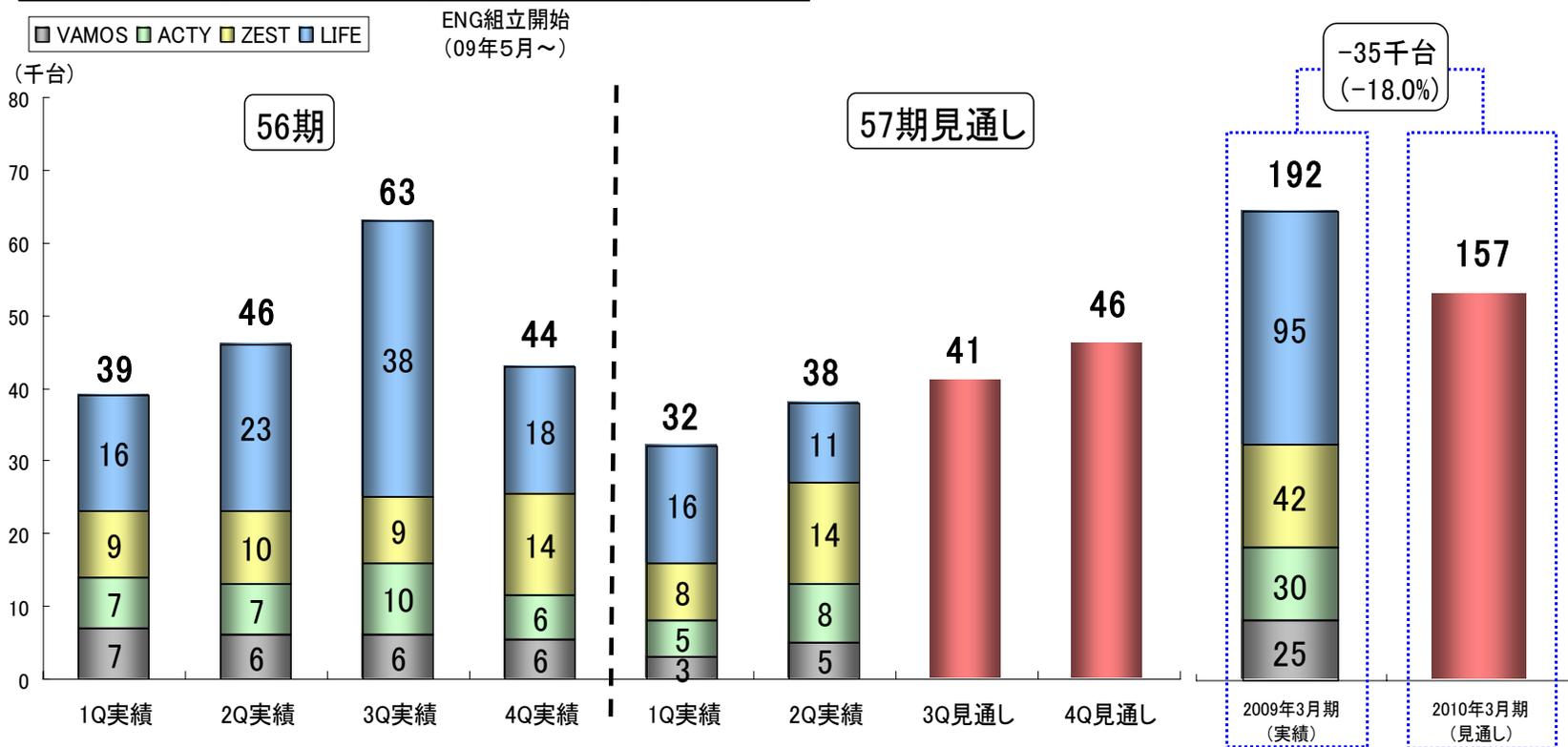
※1 ()内は、親会社(ホンダ)株式売却益を除く数値。

※2 ()内は、持分法適用関連会社(UYT)の減損処理を除く数値。

完成車事業売上台数 & 売上高 見通し

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	192千台	157千台	- 35千台 (-18.0%)
売上高	1,302億円	1,375億円	+73億円 (+5.6%)

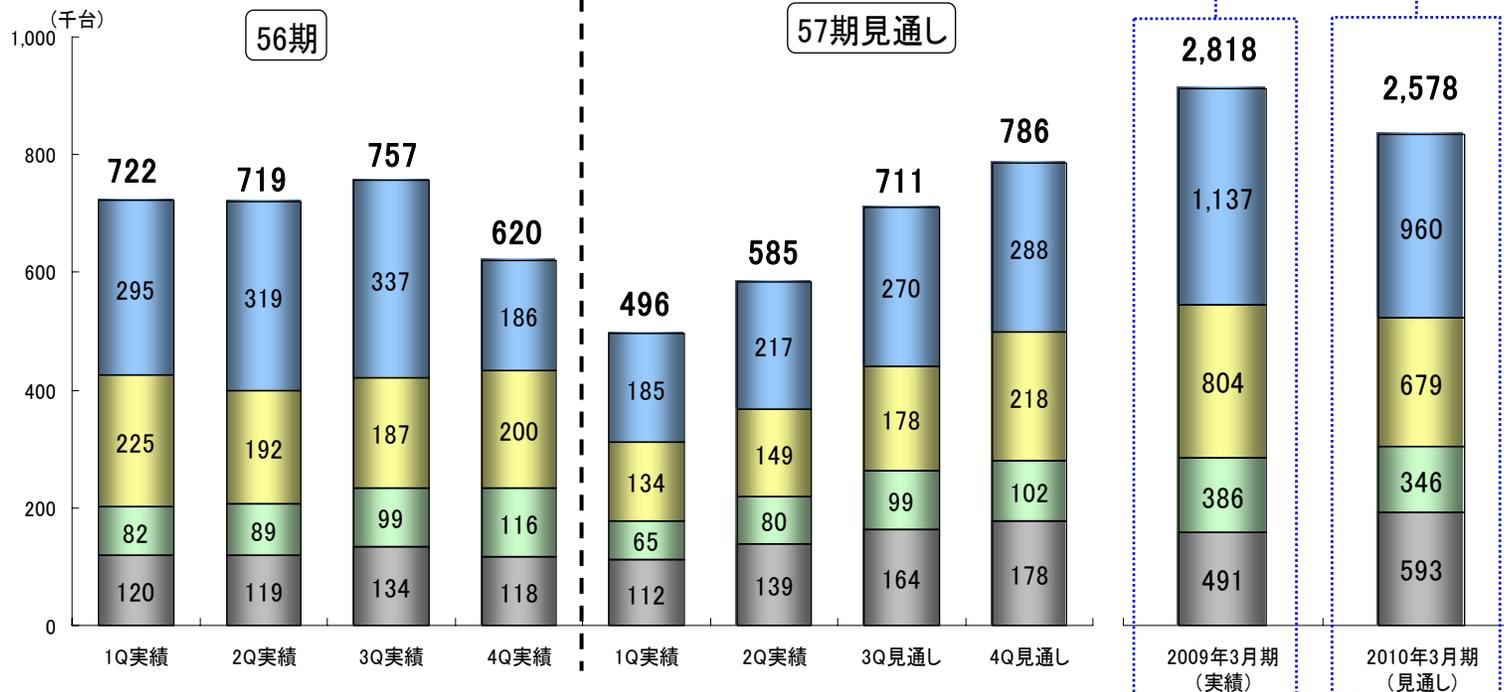
	2009年3月期	2010年3月期
日産台数	771台/日	637台/日
休買日	6日	4日



部品事業(タンク)売上台数&売上高 見通し

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	2,818千台	2,578千台	-240千台 (-8.5%)
国内	1,137千台	960千台	-177千台 (-15.6%)
北米	804千台	679千台	-125千台 (-15.5%)
タイ	386千台	346千台	-40千台 (-10.4%)
中国	491千台	593千台	+102千台 (+20.7%)
売上高	387億円	310億円	-77億円 (-19.9%)
内為替影響	—	-22億円	実質的な売上減 -55億円

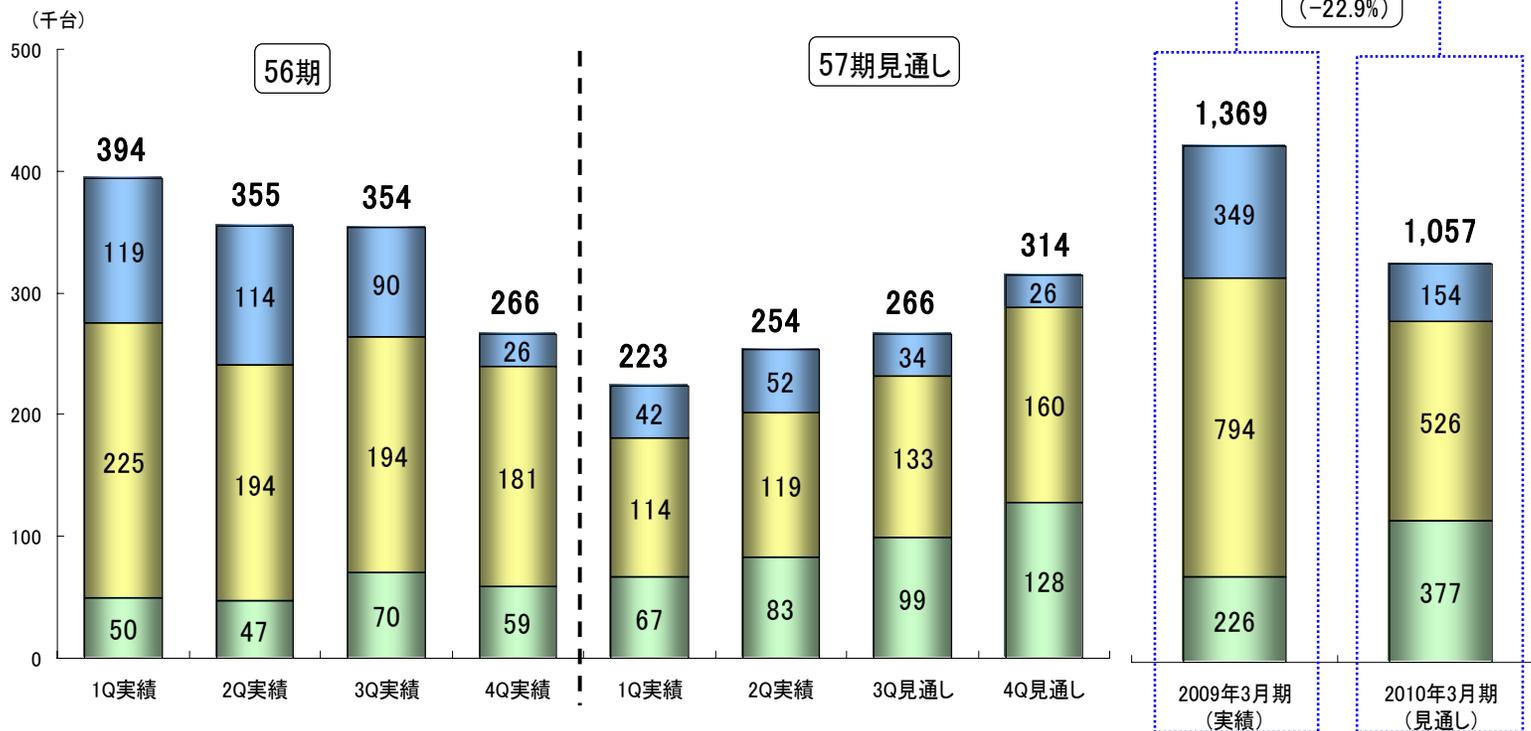
■中国 ■タイ ■北米 ■国内



部品事業(サンルーフ)売上台数&売上高 見通し

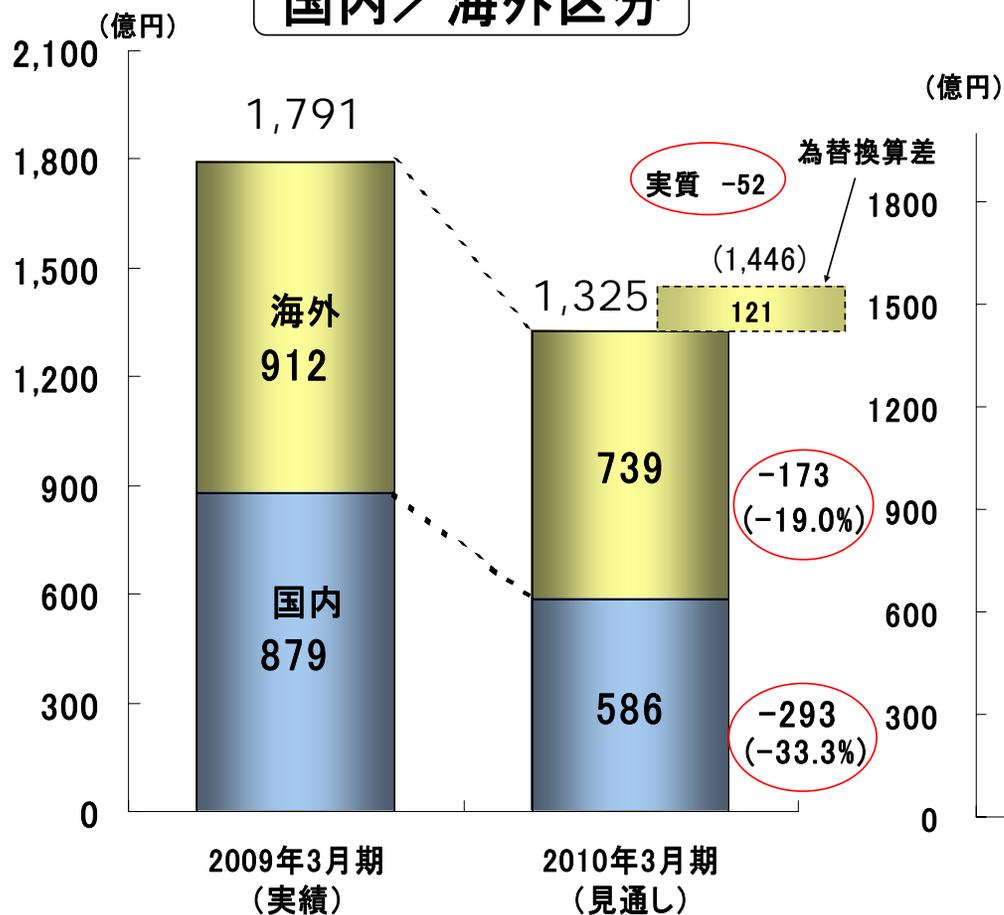
	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	1,369千台	1,057千台	-312千台 (-22.9%)
国内	349千台	154千台	-195千台 (-55.8%)
北米	794千台	526千台	-268千台 (-33.9%)
中国	226千台	377千台	+151千台 (+67.1%)
売上高	276億円	201億円	-75億円 (-26.9%)
内為替影響	—	-20億円	実質的な売上減 -55億円

■中国 ■北米 ■国内

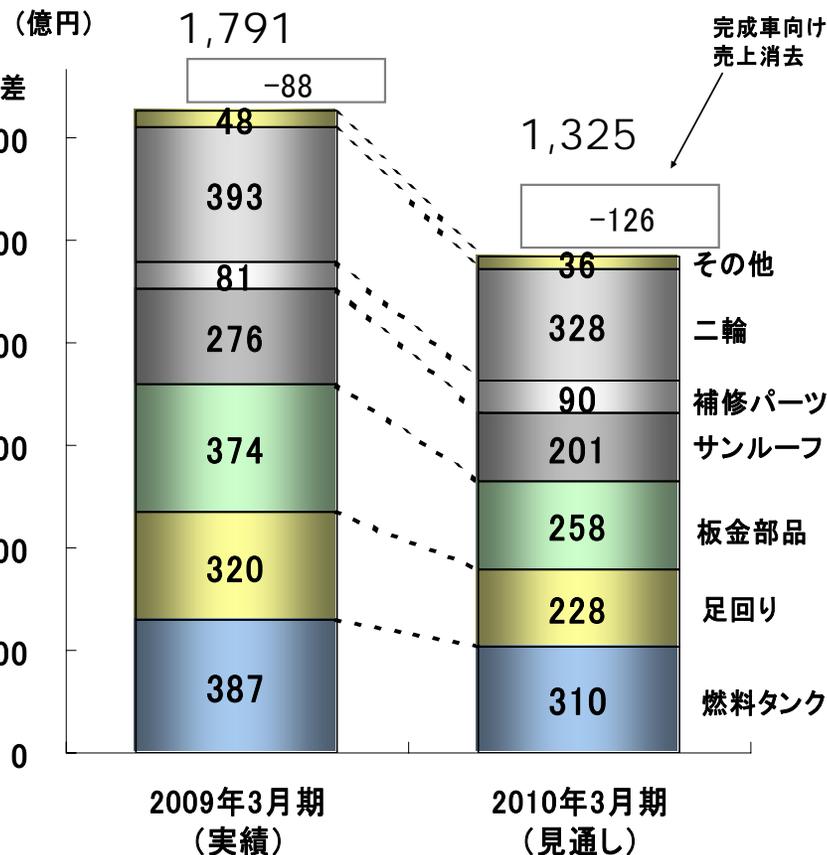


	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (見通し)	前年度比 (増減率)
売上高	1,791億円	1,325億円	-466億円 (-26.0%)

国内／海外区分



部品別区分

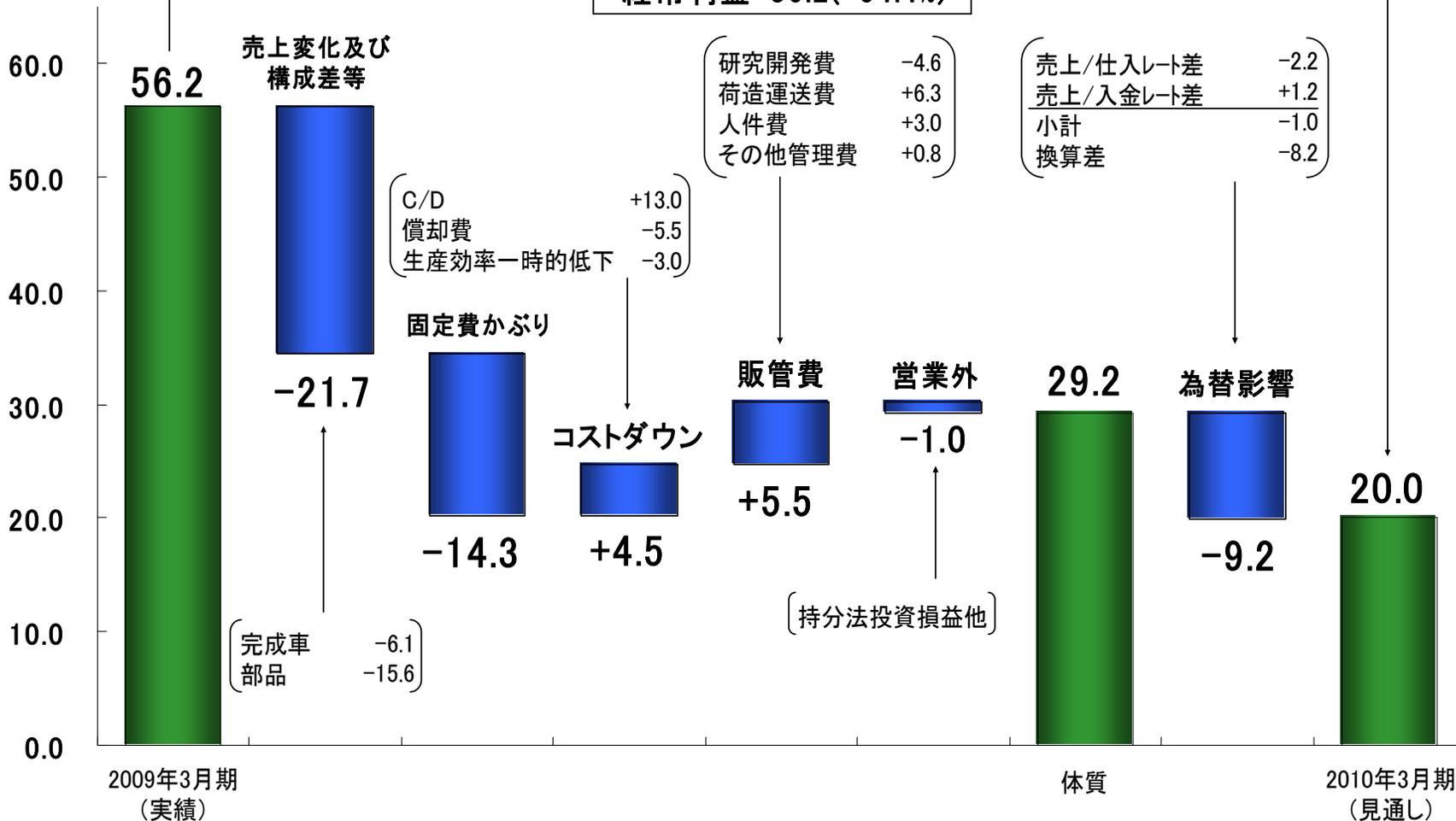


連結経常利益増減要因 前年度比

売上高	3,093	増減 -272	体質 2,821	為替換算影響 -121	2,700 ⁻³⁹³
完成車事業 部品事業	1,302 1,791	+73 -345	1,375 1,446		1,375 1,325

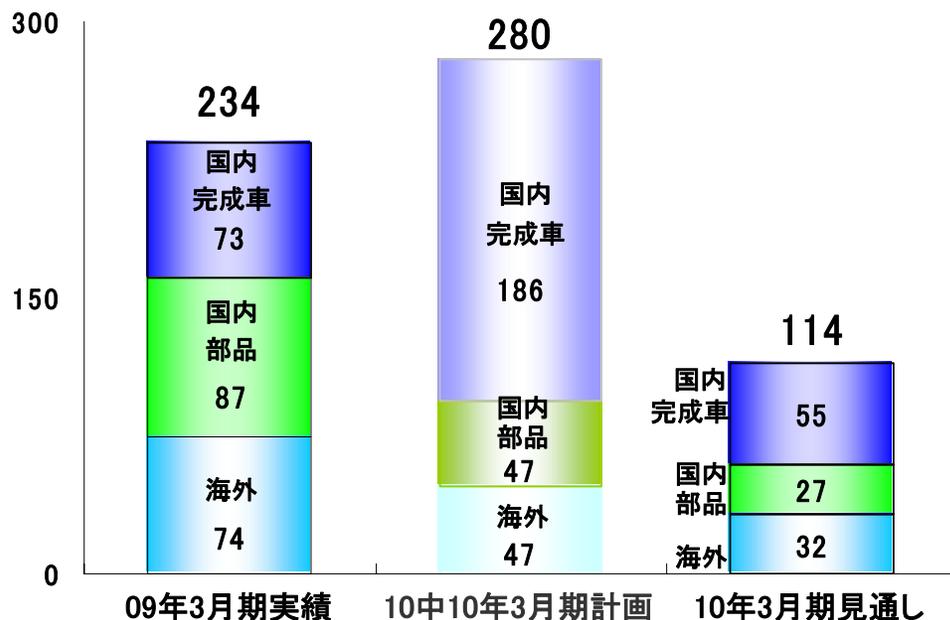
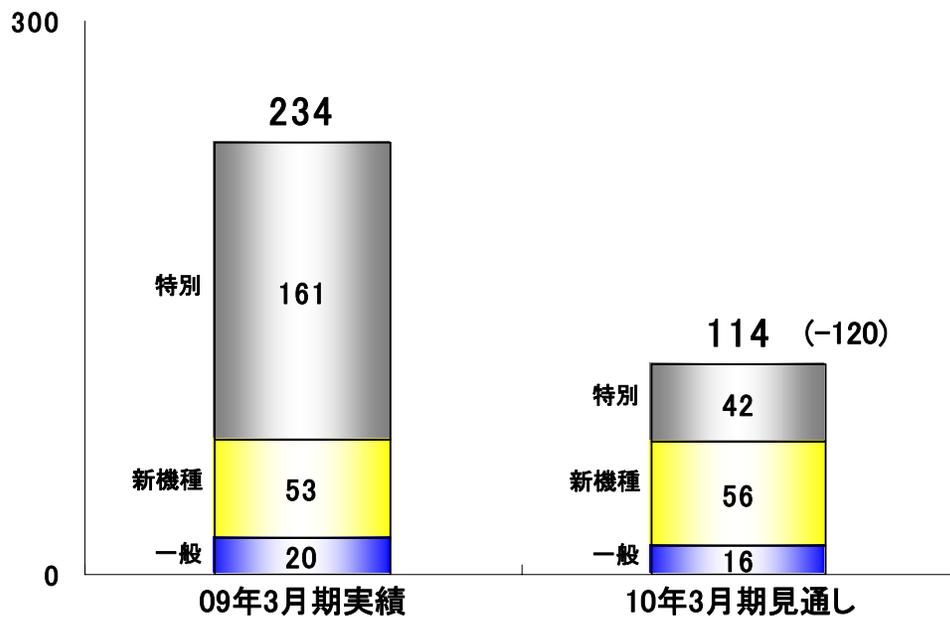
(億円)

経常利益-36.2(-64.4%)



2010年度3月期 連結投資見通し

(単位: 億円)



【10年3月期の主な内容】

	一般	特別
－ 用地取得 － ・ 完成車新工場用地・造成		(8) 8
－ 完成車新工場関連 － ・ ENG工場設備		(8) 8
－ 新拠点－ ・ ブラジル新拠点		(1) 1
－ 体改・能拡 － ・ 完成車事業 ・ 部品事業(栃木研究所増設等) ・ 海外現法(YMA PFT 導入等)		(25) 6 6 13
－ 新機種 － [金型・治具含む] ・ 国内(完成車/部品) ・ 海外現法	(56) 46 10	
－ 合理化・更新等 － ・ 国内(完成車/部品) ・ 海外現法	(16) 8 8	

[合計] 114 億円

72

42

2. 第10次中期計画の進捗状況について

- ～1. 第10次中期の方向性
- ～2. 進捗状況
- ～3. 経営指標

代表取締役社長 加藤 正彰

2. 第10次中期計画の進捗状況について

～1. 第10次中期の方向性

～2. 進捗状況

～3. 経営指標

ヤチヨのVision

お客様から期待され、期待に応える自立した企業をめざす

環境対応

価格競争力

軽量化、VOC・CO2削減
コスト競争力

飛躍的競争力向上

中長期重点目標

- ① 製品の軽量化
(VOC、CO2削減)
- ② 圧倒的コスト競争力づくり
- ③ QCDベスト工場

- ・機能部品トップランナー
- ・高効率、高品質の完成車工場(QCDベスト工場)

グローバルオペレーションの強化

・仕込みの中期
・選択と集中

飛躍の期

第9次中期

第10次中期

第11次中期

将来に向けた仕込みの継続

目的

『機能部品トップランナー』
『高効率、高品質の完成車工場
（QCDベスト工場）』
に向けた仕込みを完了する。

目標

1. 製品重量軽量化 仕込み完了
2. コストダウン 仕込み完了
3. 後処理 の大幅削減

主要施策 1

◇ もの造り体質の
再構築

1. 工程内品質保証の確立
2. ラインの高機能汎用化
3. 現場力の強化

主要施策 2

◇ 研究開発力の強化

1. 機能部品のトップランナー
への仕込み完了
2. ツーリングの競争力強化

主要施策 3

◇ グローバル
オペレーションの進化

1. マザー機能の明確化と強化
2. 地域統括機能の構築と
地域自立化
3. グローバル調達強化

2. 第10次中期計画の進捗状況について

～1. 第10次中期の方向性

～2. 進捗状況

～3. 経営指標

工程内品質保証の確立

ラインの高機能汎用化

現場力の強化

後始末の撲滅
工程短縮

変動に強い生産体質の構築

『ムダ』『ロス』改善力の向上

自ら考え行動していける、強い生産現場への成長

【もの造り体質再構築】事例

・サンルーフ組立における
脇出し検査工程の廃止

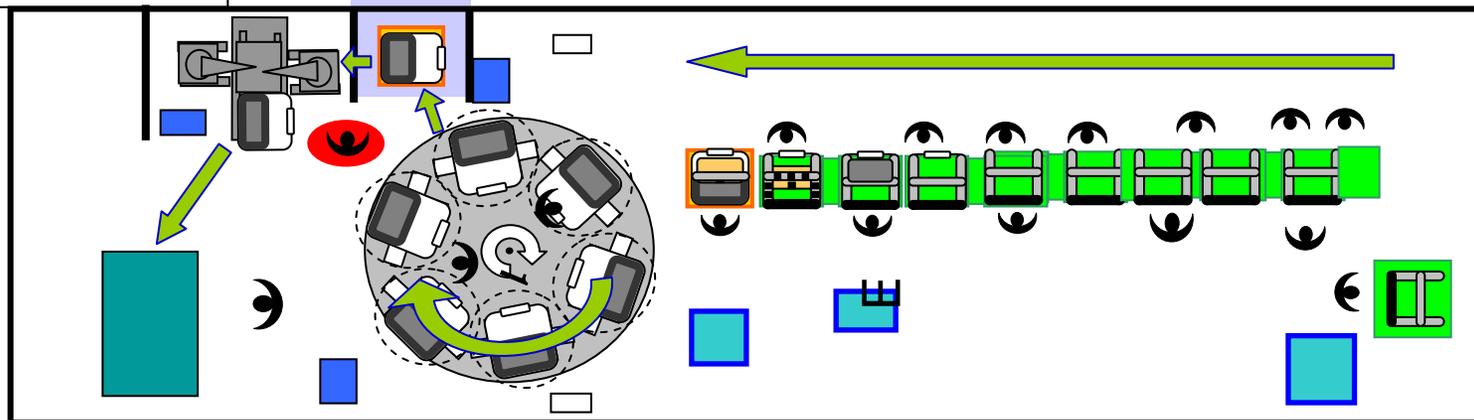
・溶接ラインのフレキ化
多品種溶接ライン

・ものづくり発表会
・QCサークル

工程内品質保証の確立 サンプル組立工程

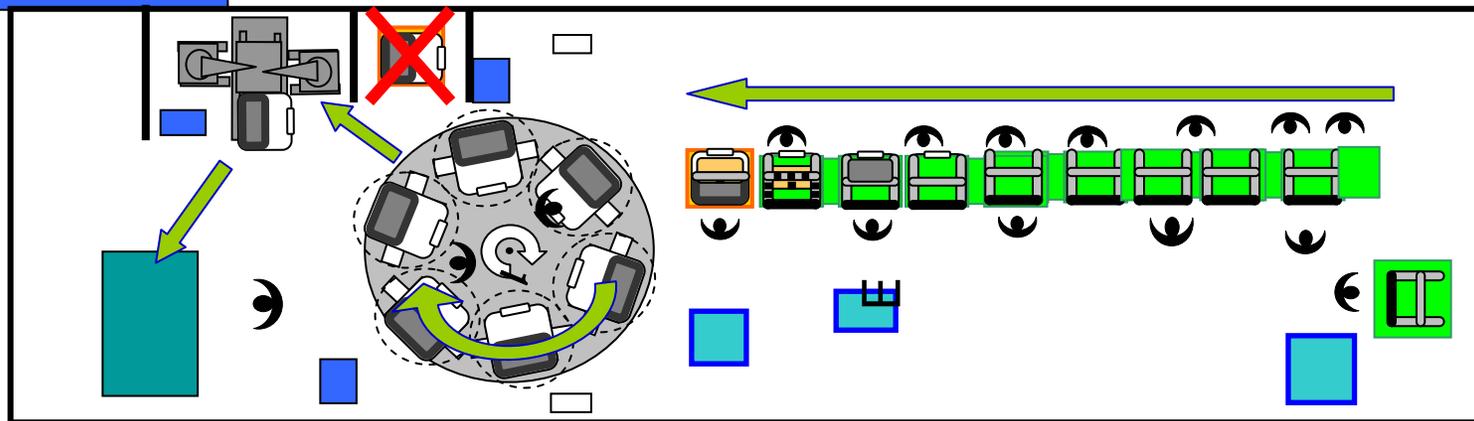
従来のサンプル組立ライン

反転機能検査工程



新しいサンプル組立ライン

作動ロジック精査と組立工程内での品質保証により反転機能検査工程を廃止



ラインの高機能汎用化 新方式の溶接ライン(Fゾーン)

(株)ワイジーテック

プレス、溶接(Fゾーン)工場として三重県東員町に設立。主に四日市製作所向け軽自動車用板金部品を生産しています。



2009年1月 溶接稼働開始



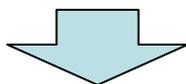
2009年4月 プレス稼働開始

ラインの高機能汎用化 新方式の溶接ライン(Fゾーン)

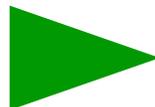
従来の生産体質

部品単位の生産ライン

中小物部品は
機種毎の変化点大



生産変動に柔軟に
対応できない。



新生産体質

工数単位の生産ライン

生産変動に対する
タフネスのあるライン

- ・打点数に合わせた汎用ライン
- ・専用治具のみで 機種対応可能

多打点	中打点	少打点	NUT類
20点以上	10点～ 20点	10点以下	

新溶接ライン



専用治具のみの交換で
多種の部品生産対応できる

現場力強化 ものづくり発表会

「全員参加でものづくりを楽しみ、職場環境の改善を行う」ことを狙いとして2008年から開催。世界各拠点で展開し、生産現場で働く従業員自らが、ものづくりに対する想いや情熱を発表する場として開催しました。各生産現場での創意工夫や智恵を共有することができました。

今年是世界大会が行われ、各地域の大会で選ばれた代表者が集います。



現場力強化 QCサークル(NYサークル)

世界各拠点で毎年開催され、現場での困りごとや効率向上といった観点から、従業員自らが改善への取組みを年間を通じて展開しています。

昨年は3年に一度の世界大会が開催され、各地域大会を勝ち抜いた優秀なチームが日本で顔を合わせ、グローバルでのもの造りの精神を共有し会うことができました。



2009年に行われた日本大会の様子



2009年に行われた北米大会の様子



2008年に行われた世界大会の様子

機能部品トップランナー
への仕込み

ツーリングの競争力
強化

研究開発力の向上
生産技術力の結集

ツーリングの能力拡大

機能部品サプライヤーとしての技術力の拡大

【 研究開発力の強化 】 事例

- ・機能部品開発の
地域完結体制構築
- ・国内開発機能の充実
- ・開発商品の対外発表

- ・金型製造機能の強化

研究開発環境の充実

栃木研究所(2009年8月増床。
曲線屋根の建物が増築部分)



北米研究開発センター(2008年7月稼働開始)
北米にて試験研究が自己完結できるようになりました。



試験設備の一例

三次元測定器
製品寸法精度の測定と
テスト前後の変化量測定



振動試験機
振動耐久性能試験



シェッド試験機
燃料タンクからの蒸散ガス量測定試験



恒温層
一定温度での製品性能試験



SST試験機
塗装性能試験



引張強度試験機



スレッド試験機
衝突時の安全性能試験



SAEワールドカンファレンス(北米)に出展 (2009年4月)

サンルーフのマーケット評価を調査するため、今後は各種展示会に出展を積極的に行っていきます。次は広州モーターショーに出展予定。

このような出展を継続化し、製品アピールの場を数多く設け、販路の拡大を目指します。

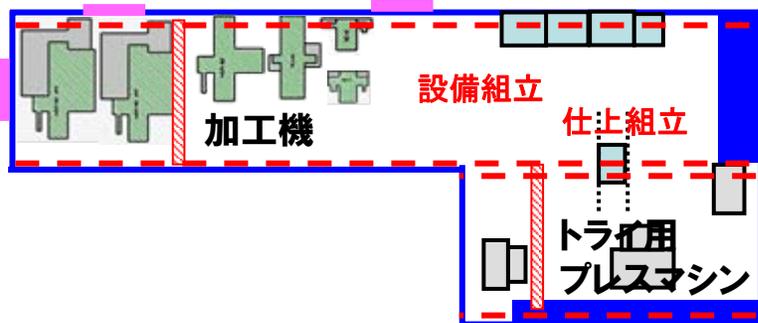


SAEワールドカンファレンスで出展した
当社開発のツインサンルーフ

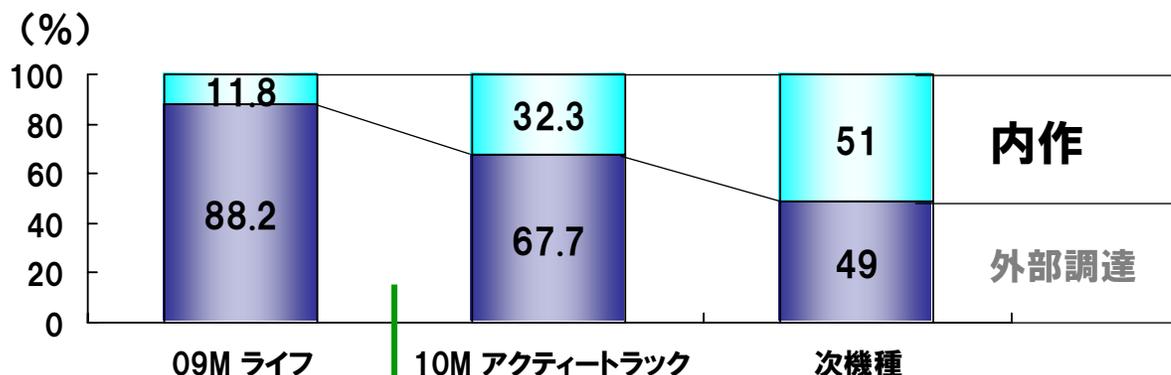


ツーリングの競争力強化

金型加工工場を新築し、1200tPGRプレスM/C及び最新鋭マシニングM/Cを導入し生産技術の競争力強化と、コスト競争力を飛躍的に高める展開しています。



金型調達割合の推移



金型加工工場の稼働開始



金型内製率の拡大を展開中

マザー機能の明確化と
強化

地域統括機能の構築と
地域自立化

グローバル調達強化

日々進化するノウハウの
継続的発信

海外オペレーションの
スピードアップ

グローバルQCDベスト調達
展開

更なる海外オペレーションの効率アップ

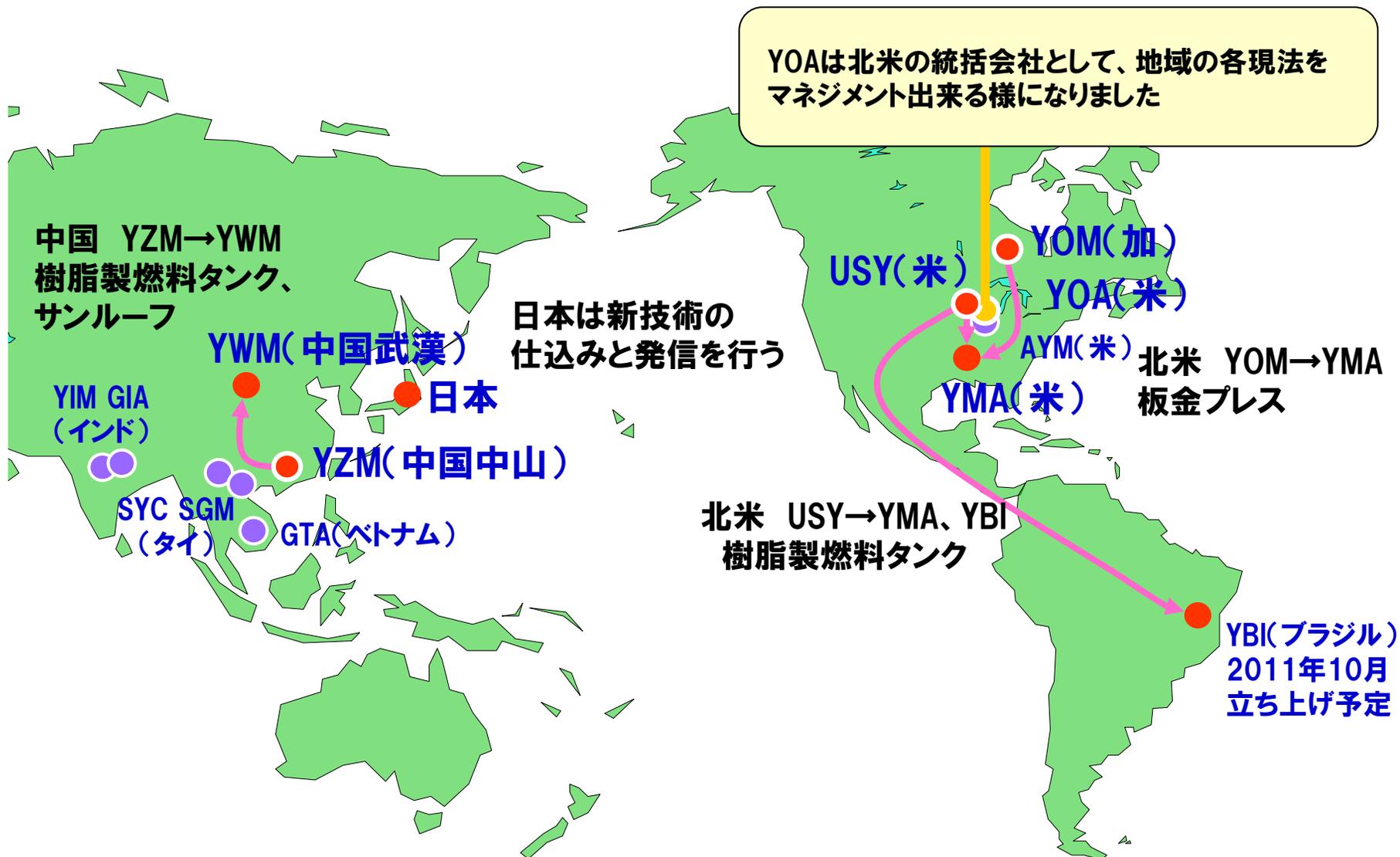
【 グローバルオペレーションの進化 】 事例

- ・最新技術の海外移転
- ・人的資源の支援

- ・地域マザーによる
事業立上げ

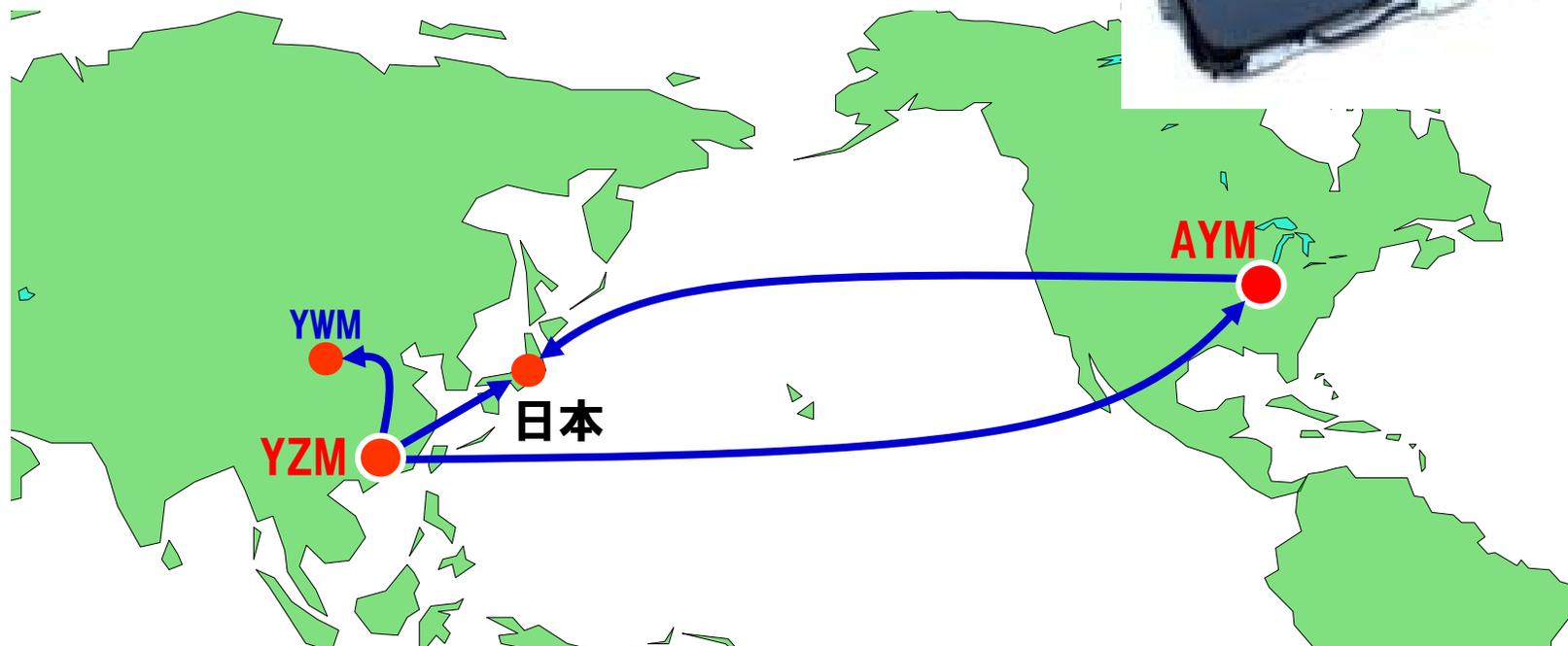
- ・サンルーフ部品の
最適調達

地域内での新事業立ち上げ支援



グローバル調達への着手(サンルーフの例)

生産量の多い北米、中国で部品の生産を行い、日本などの各生産拠点に部品供給を行います。
これにより型、設備などの投資削減(今までは3拠点→2拠点)を目指します。



部品調達は日本の購買が中心となり最適に行います。
11Mをスタートモデルとして、順次グローバルモデルに展開します。

2. 第10次中期計画の進捗状況について

- ～1. 第10次中期の方向性
 - ～2. 進捗状況
 - ～3. 経営指標
-

体質指標Ⅰ

2009年4月
見直し

当初計画

(単位:億円)	第9次中期末実績	第10次中期末	第10次中期末
連結売上高	3,220	4,300	3,300
連結経常利益率	2.5 %	3.0 %以上	3.0 %以上
株主資本利益率(ROE)	9.6 %	10 %以上	10 %以上
連結配当性向	17.2 %	15 %	15 %
有利子負債依存度	22.7 %	35 %	30 %

体質指標Ⅱ

2009年4月
見直し

当初計画

(単位:億円)	第9次中期実績	第10次中期	第10次中期
連結設備投資額 中期累計	410	800	450
連結減価償却費 中期累計 (期末)	255 (95)	420 (180)	360 (115)
連結研究開発費 中期累計 (期末)	45 (17)	90 (35)	85 (35)